

令和7年度

徳島県小学校教育課程研究集会【国語】



1

【本日の内容】

- 1 令和7年度各教科等担当指導主事
連絡・研究協議会 伝達事項
- 2 「主体的・対話的で深い学びの視点
からの授業改善」について
- 3 グループ協議

2

令和7年度小学校及び中学校
各教科等担当指導主事連絡・研究協議会

小学校 国語部会

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

3

I 学習指導要領の趣旨の再確認

1. 学習指導要領の位置付け
2. 現行学習指導要領改訂時の課題
3. 国語科の改訂の趣旨及び要点

II 小学校国語科の現在

1. 全国学力・学習状況調査において
2. 学習指導要領実施状況調査において

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

4

学習指導要領の位置付け



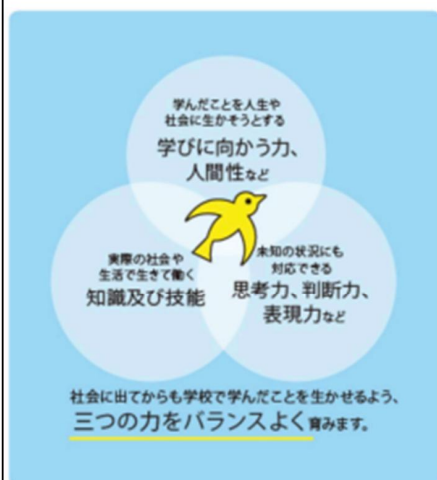
小学校の教育課程については、この節に定めるもののほか、教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する小学校学習指導要領によるものとする。

(学校教育法施行規則 第四章 第二節 第五十二条)

大綱的な基準である学習指導要領の記述の意味や解釈などの詳細について説明するために、文部科学省が作成するものであり、小学校学習指導要領第2章第1節「国語」について、その改善の趣旨や内容を解説している。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編まえがき」

(第1章 総説 2 国語科の改訂の趣旨及び要点)



国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び技能」として身に付けるために、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められるなど、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、相互に関連し合いながら育成される必要がある。

こうした「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成において大きな原動力となるのが「学びに向かう力、人間性等」である。「学びに向かう力、人間性等」については、教科及び学年等の目標においてまとめて示し、指導事項のまとまりごとに示すことはしていない。教科及び学年等の目標において挙げられている態度等を養うことにより、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成が一層充実することが期待される。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編P8」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

5

現行学習指導要領改訂時の課題



- PISA2012(平成24年実施)においては、読解力の平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっているなどの成果が見られたが、PISA2015(平成27年実施)においては、読解力について、国際的には引き続き平均得点が高い上位グループに位置しているものの、前回調査と比較して平均得点が有意に低下していると分析がなされている。これは、調査の方式がコンピュータを用いたテスト(CBT)に全面移行する中で、子供たちが、紙ではないコンピュータ上の複数の画面から情報を取り出し、考察しながら解答することに慣れておらず、戸惑いがあったものと考えられるが、そうした影響に加えて、情報化の進展に伴い、特に子供にとって言葉を取り巻く環境が変化することで、読解力に関して改善すべき課題が明らかとなったものと考えられる。
- 全国学力・学習状況調査等の結果によると、小学校では、文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること、目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題があることが明らかになっている。中学校では、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題があることが明らかになっている。
- 一方、全国学力・学習状況調査において、各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置付けた学校の割合は、小学校、中学校ともに90%程度となっており、言語活動の充実を踏まえた授業改善が図られている。しかし、依然として教材への依存度が高いとの指摘もあり、更なる授業改善が求められる。

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

ICT端末
GIGAスクール構想

学習過程
「考えの形成」の充実

知識及び技能
思考力、判断力、表現力等
との関連

指導事項の明確化
効果的な言語活動

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編P6」

6



(1) 目標及び内容の構成

- ①目標の構成の改善
- ②内容の構成の改善

(2) 学習内容の改善・充実

- ①語彙指導の改善・充実
- ②情報の扱い方に関する指導の改善・充実
- ③学習過程の明確化、「考えの形成」の重視
- ④我が国の言語文化に関する指導の改善・充実
- ⑤漢字指導の改善・充実

(3) 学習の系統性の重視

(4) 授業改善のための言語活動の創意工夫

(5) 読書指導の改善・充実

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

7

語彙指導の改善・充実①



語彙を豊かにすることに関する事項である。

語句の量を増すことと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの二つの内容で構成している。

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力の重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。

語句の量を増すことに関しては、第1学年及び第2学年では、身近なことを表す語句の量を増し、第3学年及び第4学年では、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、第5学年及び第6学年では、思考に関わる語句の量を増しとするなど、各学年において、指導する語句のまとまりを示している。これらは、あくまでも指導の重点とする語句の目安を示したものであり、これ以外の語句の指導を妨げるものではない。重点として示された語句のまとまりを中心としながら、学習の中で必要となる多様な語句を取り上げることが重要である。また、学習の中で語句を使うことを通じて、日常生活の中でも使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要である。

語句のまとまりや関係、構成や変化などについては、第1学年及び第2学年では、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと、第3学年及び第4学年では、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること、第5学年及び第6学年では、語句の構成や変化について理解することへと展開していく。また、第5学年及び第6学年においては、語彙に関する学習の小学校におけるまとめとして、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことを示している。

語彙を豊かにするためには、語句の量を増すことと、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解することの両面が必要である。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P19」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

8

語彙指導の改善・充実②



学年	指導事項
第1学年及び第2学年	身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすること。
第3学年及び第4学年	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。
第5学年及び第6学年	思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
中学校 第1学年	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高めることである。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P8」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

9

情報の扱い方に関する指導の改善・充実①



話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項である。

急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。一方、中央教育審議会答申において、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と指摘されているところである。

話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため、このような情報の扱い方に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。今回の改訂では、これらの資質・能力の育成に向け、「情報の扱い方に関する事項」を新設した。この事項は、アの「情報と情報との関係」、イの「情報の整理」の二つの内容で構成し、系統的に示している。



	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
と情報と情報 の関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

○情報と情報との関係

情報と情報との様々な関係に関する事項である。

各領域における「思考力、判断力、表現力等」を育成する上では、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、自分のもつ情報と情報との関係を明確にして話や文章で表現したりすることが重要になる。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P8」

○情報の整理

情報の整理に関する事項である。

情報を取り出したり活用したりする際に行う整理の仕方やそのための具体的な手段について示している。こうした「知識及び技能」を、言語活動の中で使うことができるようにすることが重要である。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P8」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

11

学習過程の明確化、「考えの形成」の重視①



③学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

中央教育審議会答申においては、**ただ活動するだけの学習にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのか**を示すため、平成20年告示の学習指導要領に示されている学習過程を改めて整理している。この整理を踏まえ、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。

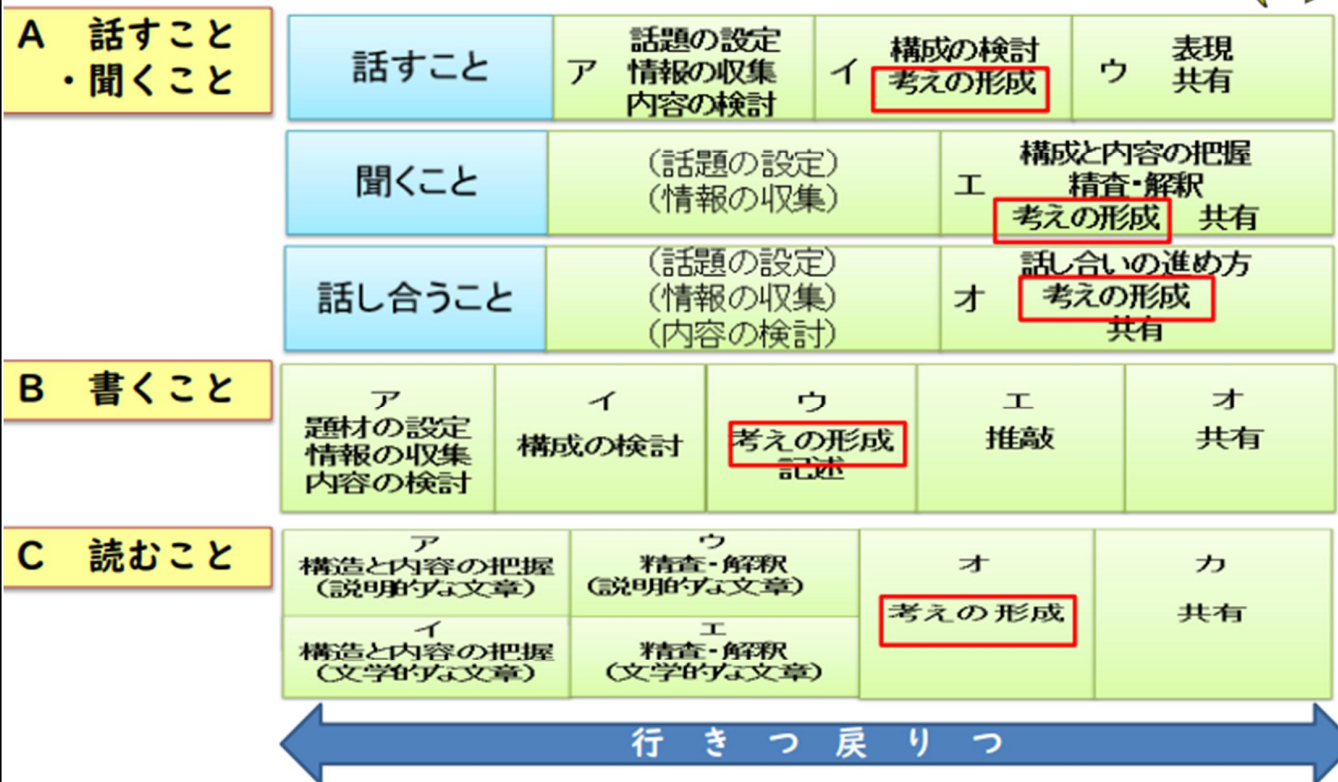
また、全ての領域において、**自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項**を位置付けた。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P9」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

12

学習過程の明確化、「考えの形成」の重視②



(令和7年度小学校及び中学校
各教科等担当主事連絡・研究協議会
【小学校・国語部会】資料より作成)

13

我が国の言語文化に関する指導の改善・充実①



中央教育審議会答申においては、「引き続き、我が国の言語文化に親しみ、愛情を持って享受し、その担い手として言語文化を継承・発展させる態度を小・中・高等学校を通じて育成するため、伝統文化に関する学習を重視することが必要である。」とされている。

これを踏まえ、「伝統的な言語文化」、「言葉の由来や変化」、「書写」、「読書」に関する指導事項を「我が国の言語文化に関する事項」として整理するとともに、第1学年及び第2学年の新しい内容として、言葉の豊かさに関する指導事項を追加するなど、その内容の改善を図った。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P9」

我が国の言語文化とは、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた文化的に価値をもつ言語そのもの、つまり文化としての言語、またそれらを実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な言語生活、さらには、古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容されてきた多様な言語芸術や芸能などを幅広く指している。今回の改訂では、これらに関わる「伝統的な言語文化」、「言葉の由来や変化」、「書写」、「読書」に関する内容を「我が国の言語文化に関する事項」として整理した。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P25」

我が国の言語文化に関する指導の改善・充実②



○伝統的な言語文化

伝統的な言語文化に親しむことに関する事項である。

我が国の言語文化に触れ、親しんだり、楽しんだりするとともに、その豊かさに気付き、理解を深めることに重点を置いて内容を構成している。

各学年のアは、音読するなどして言葉の響きやリズムに親しむことを系統的に示している。イは、第1学年及び第2学年では言葉の豊かさに気付くことを、第3学年及び第4学年ではことわざや慣用句、故事成語などの長い間使われてきた言葉を知り、使うことを、第5学年及び第6学年では作品に表れている昔の人のものの見方や感じ方を知ること示している。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P25より」

○言葉の由来や変化

言葉の由来や変化に関する事項である。

第3学年及び第4学年では部首と他の部分とによって漢字が構成されることを知るとともに、実際の漢字についてその構成を理解することを示している。第5学年及び第6学年では、時間や場所による言葉の変化、言葉の由来に関することについて理解することを示している。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P25より」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

15

我が国の言語文化に関する指導の改善・充実③



○書写

書写に関する事項である。

ここに示す内容を理解し使うことを通して、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。

文字のまとまった学習は、小学校入学を期に始まる。文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まりの書き方」に関する事項へと、内容を系統的に示している。さらに、文字や文字の集まりの書き方を基礎として、筆記具を選択し効果的に使用するなど、目的や状況に応じて書き方を判断して書くことについて示している。

なお、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2(1)カに示している書写の学習指導の配慮事項を踏まえる必要がある。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P25」

○読書

読書の意義や効用などに関する事項である。

読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結び付くよう発達段階に応じて系統的に指導することが求められる。

なお、「読書」とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P26」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

16

読書指導の改善・充実



(5) 読書指導の改善・充実

中央教育審議会答申において、「読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。」とされたことを踏まえ、各学年において、**国語科の学習が読書活動に結びつくよう**〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項を位置付けるとともに、「読むこと」の領域では、**学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例を示した。**

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P10」

学年	指導事項
第1学年及び第2学年	読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。
第3学年及び第4学年	幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
第5学年及び第6学年	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
中学校第1学年	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。

読書は、**国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つ**である。このため、今回の改訂では、読書に関する指導事項を〔知識及び技能〕の(3)に位置付けている。〔知識及び技能〕の「読書」に関する指導事項及び〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の指導を通して、**児童の読書意欲を高め、日常生活における読書活動につながるよう配慮することが重要である。**

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P157」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

17

漢字指導の改善・充実



中央教育審議会答申において、「漢字指導の改善・充実の観点から、児童の学習負担を考慮しつつ、常用漢字表の改定(平成22年)、児童の日常生活及び将来の社会生活、国語科以外の各教科等の学習における必要性を踏まえ、都道府県名に用いる漢字を『学年別漢字配当表』に加えることが適当である。」とされている。これを踏まえ、都道府県名に用いる漢字20字を「学年別漢字配当表」の第4学年に加えるとともに、児童の学習負担に配慮し、第4学年、第5学年、第6学年の配当漢字及び字数の変更を行った。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P9」

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

エ 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

- (ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。
- (イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。
- (ウ) 他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう指導を工夫すること。
- (エ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。

「小学校学習指導要領 第2章各教科 第1節国語 第3 指導計画の作成と内容の取扱いP39」

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

18



国語科の指導内容は、**系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し**、資質・能力の定着を図ることを基本としている。このため、小・中学校を通じて、〔知識及び技能〕の指導事項及び〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図った。（系統表参照）

〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し、どのような**言語活動を通して**資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示すという関係を明確にするとともに、**各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点**から、従前に示していた言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめた形で示した。

「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編P10」

話すこと・聞くこと	話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて、聞き手が感想や意見を述べる言語活動	情報を収集したり、それらを発信したりする言語活動	目的に沿って話し合うことを通して互いの考えを共有したり、生かし合ったりする言語活動
書くこと	主として説明的な文章を書く言語活動	主として実用的な文章を書く言語活動	主として文学的な文章を書く言語活動
読むこと	主として説明的な文章を読んで分かったことや考えたことを表現する言語活動	主として文学的な文章を読んで内容を説明したり考えたことなどを伝え合ったりする言語活動	主として学校図書館などを利用し、本などから情報を得て活用する言語活動

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

19

全国学力・学習状況調査①「話すこと・聞くこと」の課題



- 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに引き続き課題がある。(r4)
- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。(r5)
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がある。(r6)
- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。(r6)

文部科学省・国立教育政策研究所「令和3年度～令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書
【小学校】国語 2. 教科に関する調査の結果(概要)より作成



- ・ 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。(r 3)
- ・ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。(r 4)
- ・ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。(r 4)
- ・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。(r 5)
- ・ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに引き続き課題がある。(r 6)

文部科学省・国立教育政策研究所「令和3年度～令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書
【小学校】国語 2. 教科に関する調査の結果（概要）より作成

（令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成）

21



- ・ 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。(r 3)
- ・ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。(r 3)
- ・ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。(r 4)
- ・ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。(r 4)
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。(r 5)
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がある。(r 5)

文部科学省・国立教育政策研究所「令和3年度～令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書
【小学校】国語 2. 教科に関する調査の結果（概要）より作成

（令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成）

22

全国学力・学習状況調査④「知識及び技能」の課題



- ・ 文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。(r3)
- ・ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題がある。(r4)
- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。(r4)
- ・ 日常よく使われる敬語を理解することに引き続き課題がある。(r5)
- ・ 原因と結果など情報と情報との関係について理解することに課題がある。(r5)
- ・ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。(r5)
- ・ 文の中における主語と述語との関係を捉えることに引き続き課題がある。(r6)

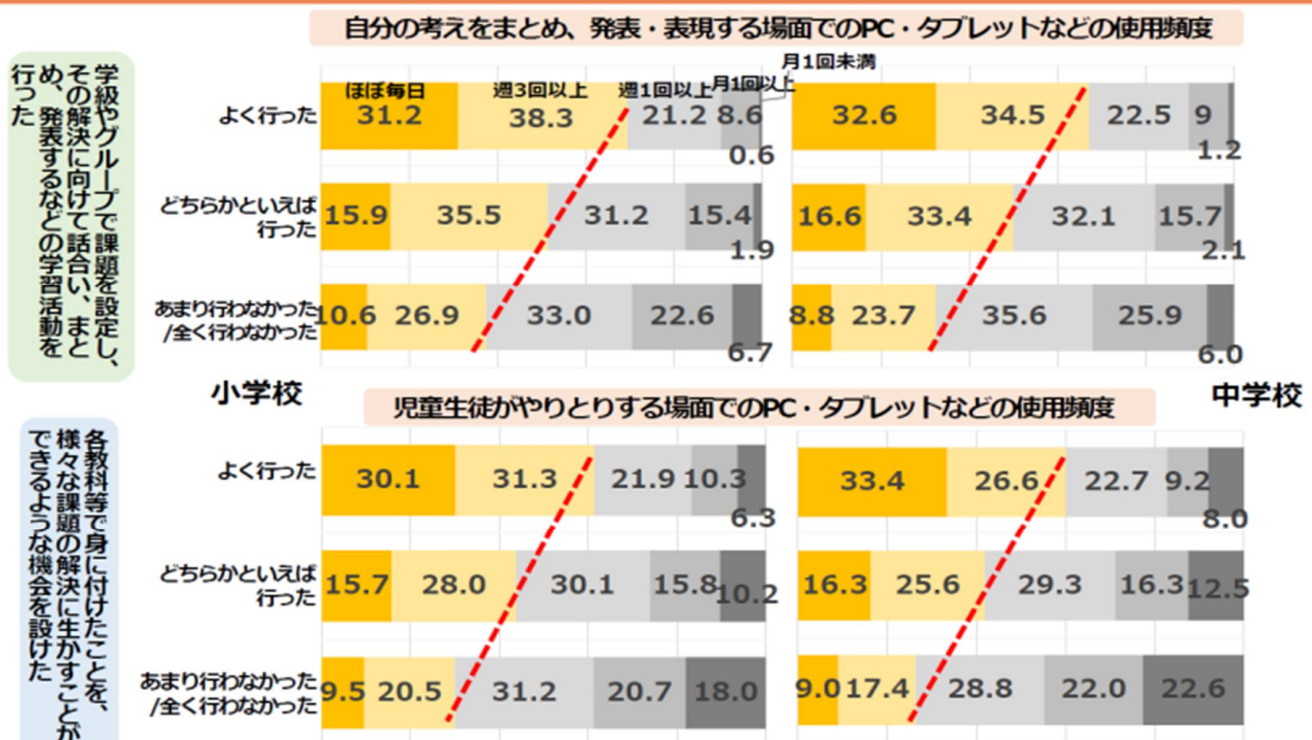
(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成) 文部科学省・国立教育政策研究所「令和3年度～令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書【小学校】国語 2. 教科に関する調査の結果(概要)より作成

23

全国学力・学習状況調査⑤「質問紙調査」より



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行っている学校ほどICT機器を活用している傾向



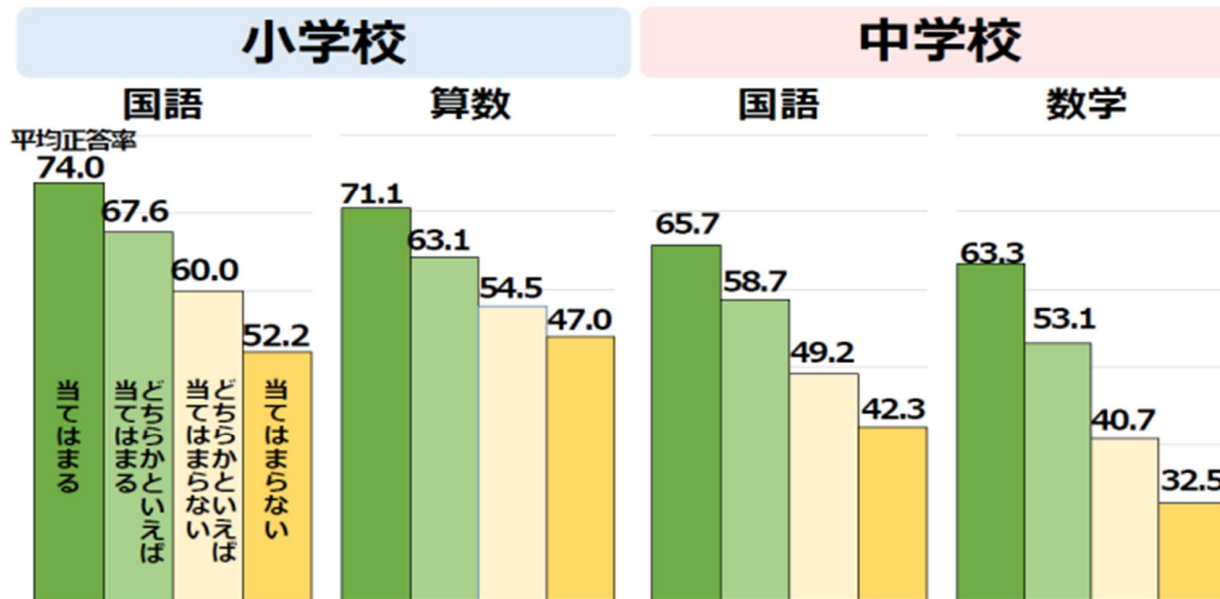
(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会(小学校・国語部会)資料より作成)

24



「主体的・対話的で深い学び」に取り組む子供は
平均正答率が高い傾向

Q 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



【出典】文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」をもとに作成
（令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成）

25

小学校学習実施状況調査①



令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について（国語）

【速報版】

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目標に改善・充実。
- ・学習の基盤となる言語能力等を支える語彙、急速に情報化が進化する社会における情報の扱い方等に関する「知識及び技能」の指導事項を改善・充実。
- ・ただ活動するだけではなく、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すため、「思考力、判断力、表現力等」の各領域において学習過程を一層明確化し、特に自分の考えを形成する学習過程を重視。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 語彙については、様子や行動等を表す語句について相当数の児童ができていた一方で、思考に関わる語句について課題があると考えられる設問がある。
- 情報の扱い方については、必要な語句などの書き留め方について相当数の児童ができていた一方で、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方について課題があると考えられる。
- 「考えの形成」については、「書くこと」の領域において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。また、「読むこと」の領域において、文学的な文章を読む際に自分の考えをもつことについては相当数の児童ができていた一方で、説明的な文章を読む際に自分の考えをもつことについては課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
- ・適切な言語活動を通して、生きて働く「知識及び技能」と未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」を相互に関連させながら資質・能力を育成する指導の充実を図る。
- ・「考えの形成」については、文章を読んで理解したことに基づいて自分の知識や経験等と結び付けて考えをまとめる指導や、自分の考えを明確にして書き表し方を工夫する指導等の充実を図る。

4. 調査問題例（ペーパーテスト 小学校/国語）

「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方」の問題例（別紙1参照）

- 環境により暮らし方について調べ、家の人たちを招いてスピーチで提案する言語活動の中で、自分の考えが伝わるように資料活用の方を工夫するため、情報を整理し図で表すことができるかを問う問題を出題。【通過率 59.0%】

「文学的な文章を読む際に自分の考えをもつこと」の問題例（別紙2参照）

- 物語を読み、その魅力をまとめるという言語活動の中で、文章を読んで理解したことに基づいて、物語全体の魅力について自分の考えをもつことができるかを問う問題を出題。【通過率 80.5%】

「説明的な文章を読む際に自分の考えをもつこと」の問題例（別紙3参照）

- 生き物について書かれた説明的な文章を読み、考えるという言語活動の中で、文章を読んで理解したことに基づいて、疑問に思ったことやもっと知りたいことについての自分の考えをもつことができるかを問う問題を出題。【通過率 40.4%】

令和6年7月10日今後の教育課程、
学習指導及び学習評価等の在り方に関する
有識者検討会（第13回）資料 2-2

（令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成）

26

小学校学習実施状況調査②



別紙 1 (問題例)

「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方」の問題例

【通過率 59.0%】

[illegible]

3

令和6年7月10日今後の教育課程、
学習指導及び学習評価等の在り方に関する
有識者検討会（第13回）資料2-2

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

27

小学校学習実施状況調査③



別紙 2 (問題例)

「文学的な文章を読む際に自分の考えをもつこと」の問題例

【通過率 80.5%】

【通過率 80.5%】

国語 第6学年・文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをもつことができるかを問う問題

この問題を解く上では、以下のような資質・能力が必要となる。

①文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら理解したことについて、表現すること。

②文章を読んで理解したことに基いて自分の考えを形成し、表現すること。

ここでは、物語全体の魅力をまとめることが必要。

中しんんは、物語を読み、その魅力をまとめようとしています。本文を読んで、あとの問題を答へましょう。

【余】 中しんんは、この物語全体の魅力をまとめようとしています。あなたなどのようにまとめますか。次の【余】に答えて書きましょう。

【余】 ① この物語には、どのような魅力があるか、まとめて自分の考えを書こう。

② この物語の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら理解したことについて、表現すること。

③ この物語の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら理解したことについて、表現すること。

④ 六十字以上、百二十字以内で書くこと。

本文省略

★魅力：物語のよさを詳しく書きつづけたこと

・物語が進むにつれて、主人公の雨に対するとらえ方が変わっていくのがみ力だと思いました。最初は、雨がゆううつでいやなものとして書かれています。洋品店やあわむらさき色のドレスとの出会いによって雨の中を歩くのが楽しくなるなど、雨がよいものに変化していきます。（127字）

4

令和6年7月10日今後の教育課程、
学習指導及び学習評価等の在り方に関する
有識者検討会（第13回）資料2-2

(令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成)

28



「説明的な文章を読む際に自分の考えをもつこと」の問題例

【通過率 40.4%】

〈正答例〉
・タコがイカやウミヘビのふりをして身を守ることが分かりました。イカとウミヘビはすがたがちがうのに、どうやってそっくりになるのか見てみたいと思いました。（74字）

本文省略

生き物について書かれた文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

① タコの知能がどれほど高いかということについて、本文を読んで分かったことを書くこと
② ①に書いたことと関連させて、疑問に思ったことやもつと知りたいことを書くこと
③ 五十字以上、八十字以内で書くこと

国語 第4学年・文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをもつことができるかを問う問題
この問題を解く上では、以下のような資質・能力が必要となる。
①文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら理解したことについて、表現すること。
②文章を読んで理解したことに基いて自分の考えを形成し、表現すること。
ここでは、疑問点や更に知りたい点などを見いだすことが必要。

5

令和6年7月10日今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（第13回）資料2-2

（令和7年度小学校及び中学校各教科等担当主事連絡・研究協議会【小学校・国語部会】資料より作成）

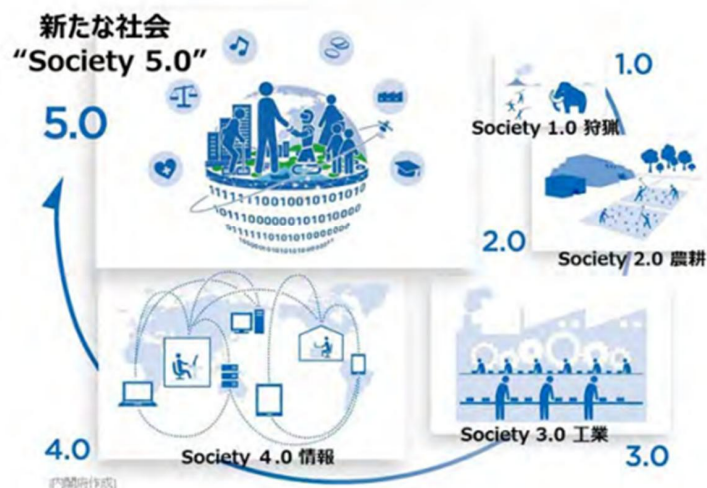
29

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

Society 5.0時代の到来

Society 5.0とは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱。



「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養



生きて働く知識・技能の習得



未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成



何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現



何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す



どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の
視点からの学習過程の改善

- 生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
- 知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



（「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』より作成） 31

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする。

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。



学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養



生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。



（「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』より作成） 32

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

主体的な学びの視点

○学習課題に対して、目的や必要性を感じている。

○単元のゴールをつかんでいる。

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

対話的な学びの視点

○自分の思いや考えを言葉で表している。

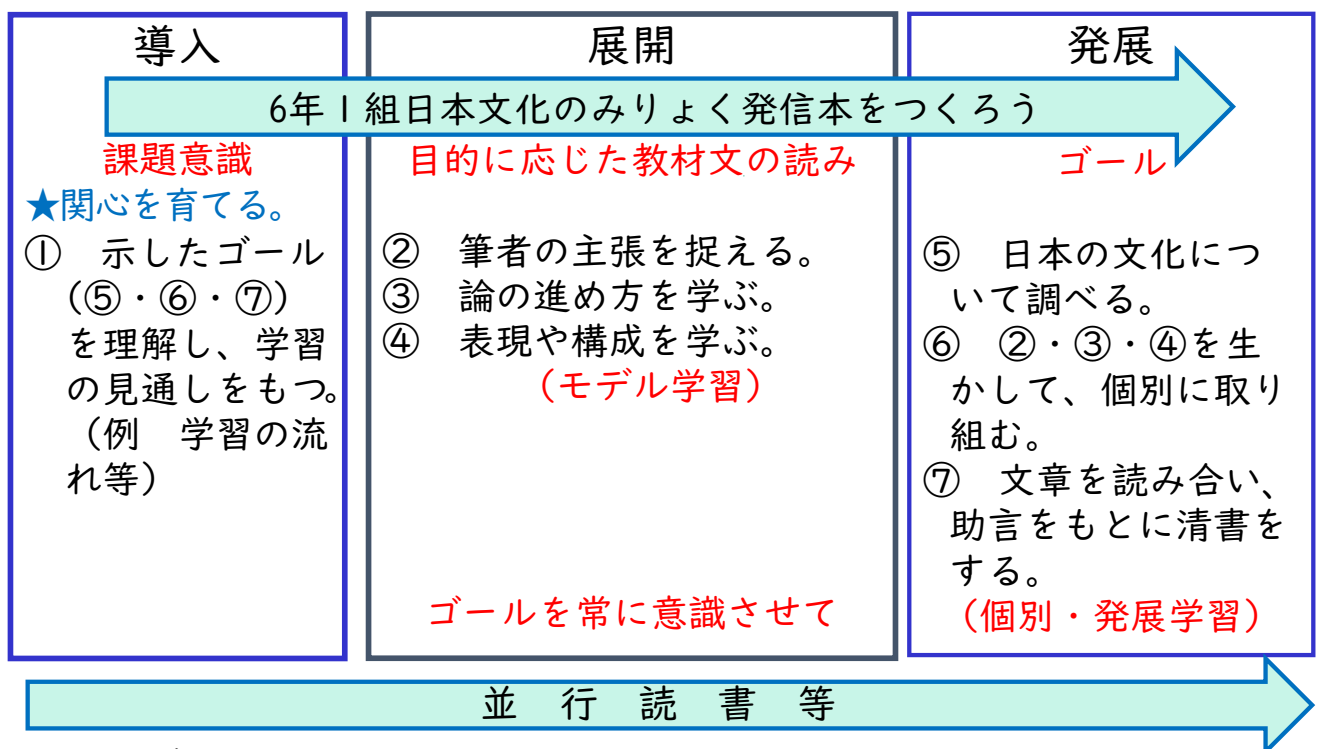
○対話の目的を理解している。

深い学びの視点

○自分の考えをより深いものにしている。

○これまでの学習と関連付けて、自分の考えを作り上げている。

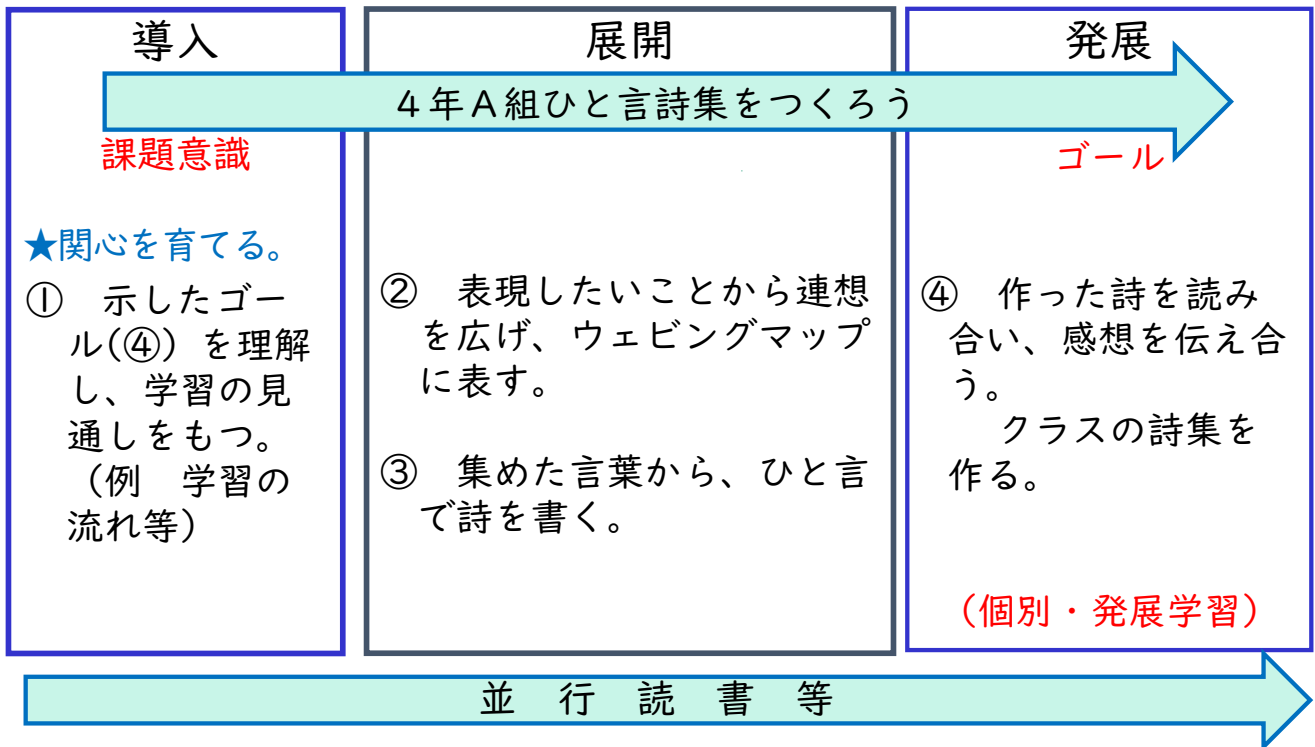
授業実践例【第6学年「『鳥獣戯画』を読む」、 「発見、日本文化のみりよく」（光村図書六年）】



文章の扱い方

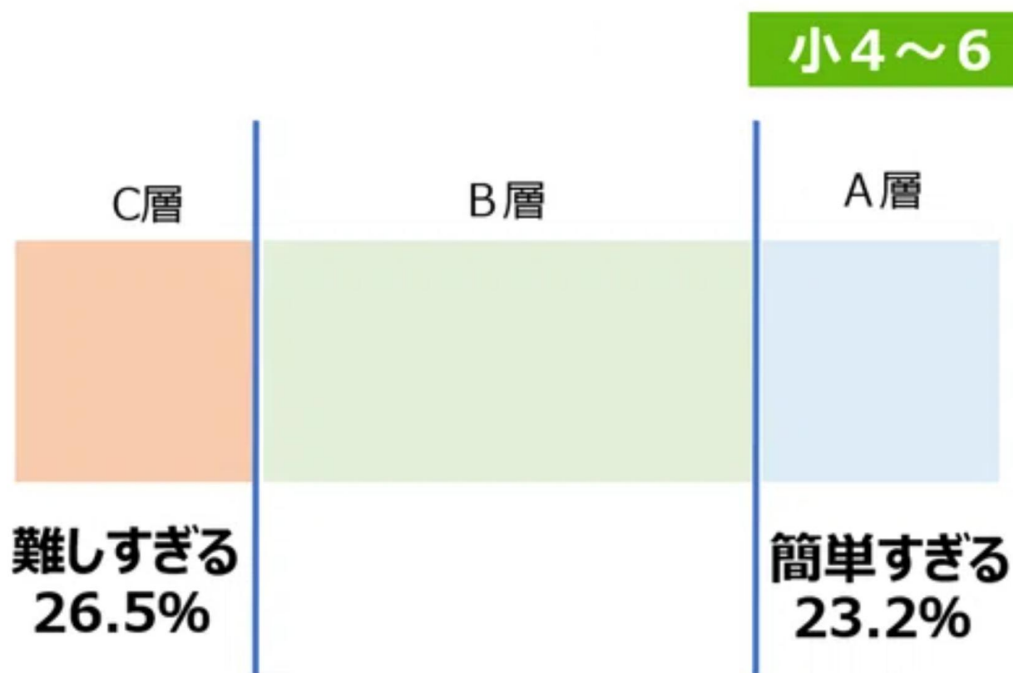
例 文章の構成を捉え、筆者の主張をまとめる。
資料の目的を明確にして、論の進め方を考える。

授業実践例【第4学年「言葉から連想を広げて」（光村図書四年下）】



37

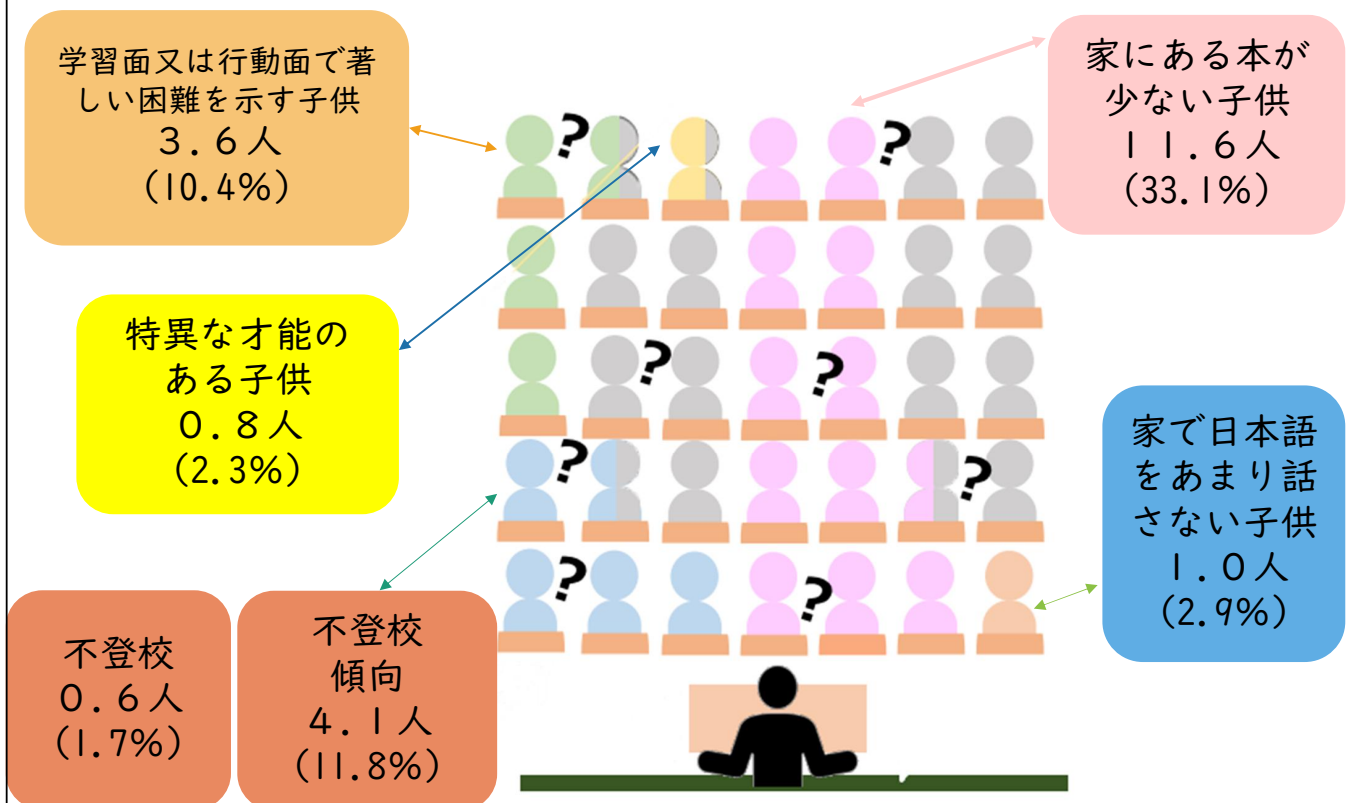
「授業の理解度には大きな差がある」



【データの出典】文部科学省「義務教育に関する意識に係る調査」

学力層C 26.5% (小学校4～6年生 授業の内容が難しすぎると思う とてもあてはまる＋少しあてはまる)
 学力層A 23.2% (小学校4～6年生 授業の内容が簡単すぎると思う とてもあてはまる＋少しあてはまる)

「教室の中にある多様性」 （小学校35人学級に当てはめて）



39

「個別最適な学び」とは

個別最適な学び【学習者視点】
（＝個に応じた指導【教師視点】）

児童が自己調整をしながら学習を進めていくことの重要性

指導の個別化

子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度に応じ、
教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫
を行う

→一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、
異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を
行う

→異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

40



(「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』より作成) 41

「協働的な学び」とは

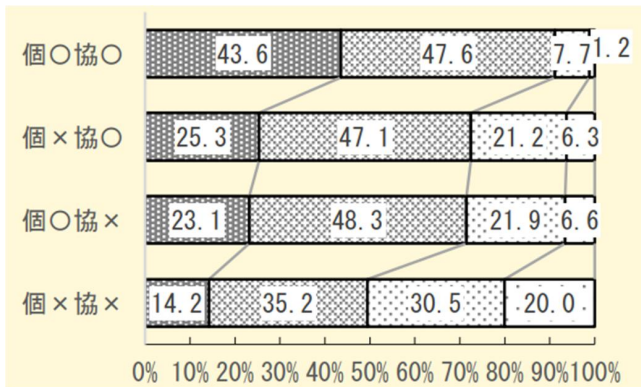
協働的な学び

子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者
と協働する

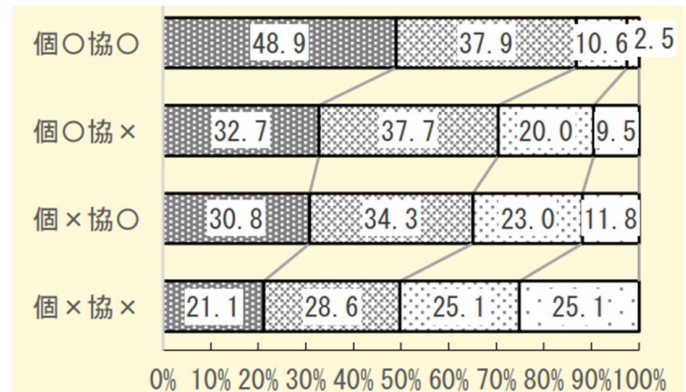
→異なる考え方が組み合わせり、よりよい学び
を生み出す

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

〔個別最適〕 × 〔協働的〕
× 〔国語の授業よく分かる〕



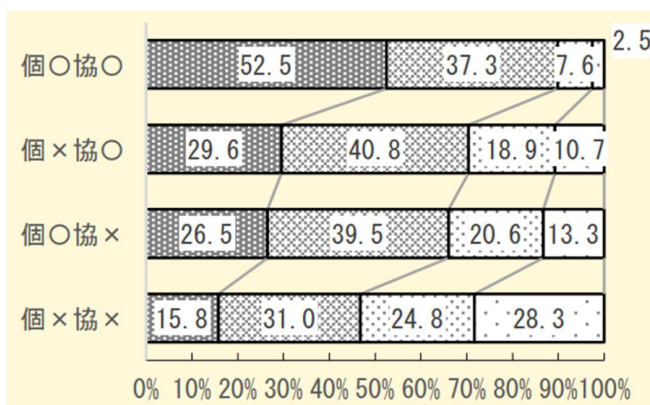
〔個別最適〕 × 〔協働的〕
× 〔算数の授業よく分かる〕



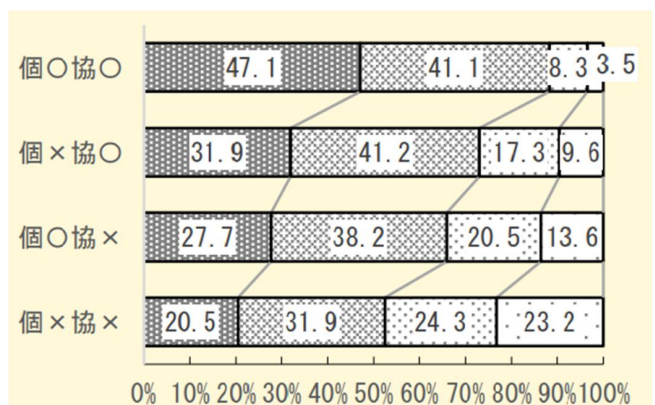
(文部科学省「R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果について」より作成) 43

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

〔個別最適〕 × 〔協働的〕
× 〔学校に行くのは楽しい〕



〔個別最適〕 × 〔協働的〕
× 〔自分にはよいところがあると思う〕



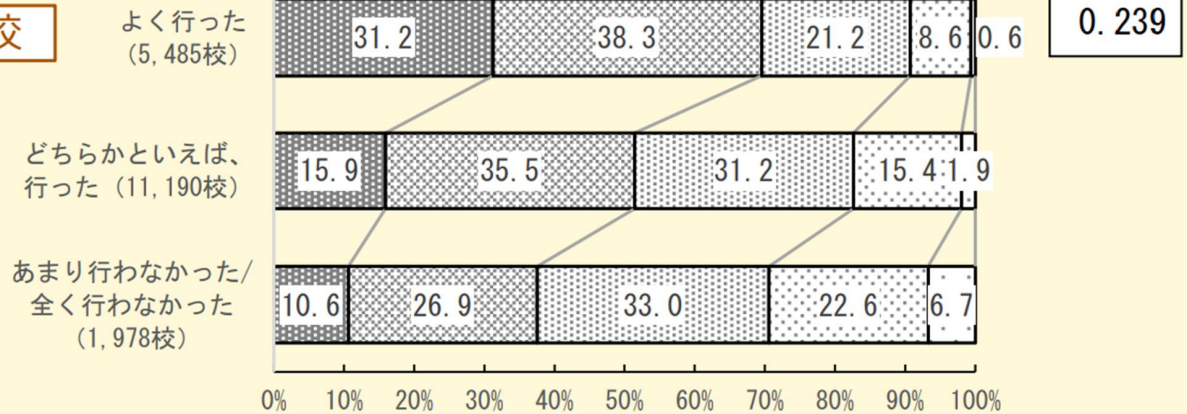
(文部科学省「R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果について」より作成) 44

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

〔課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動〕
× 〔考えをまとめ、発表・表現する場面でのICTの活用頻度〕

■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 □ 月1回未満

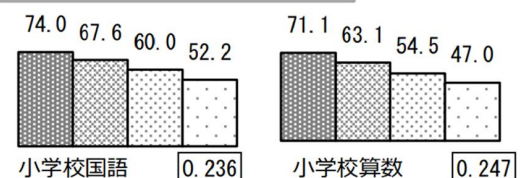
小学校



5年生まで〔1、2年生のとき〕の授業で
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

(文部科学省「R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果について」より作成)

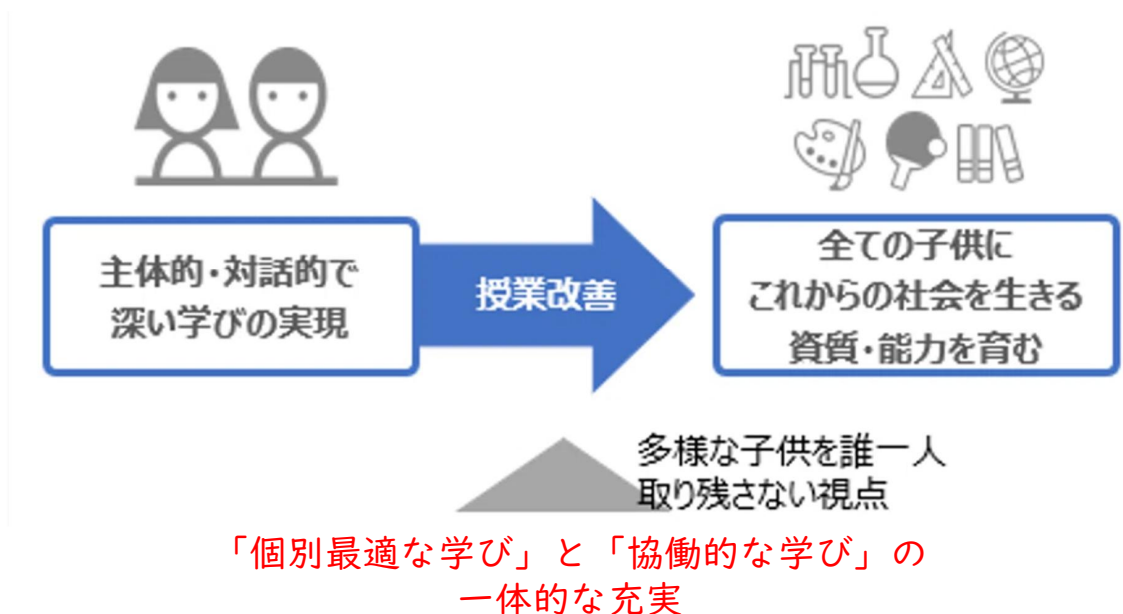
選択肢ごとの教科の平均正答率



45

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
誰一人取り残さない形で、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



グループ協議

議題

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

目的

- ① 効果的な授業改善例を共有し、考える。
- ② 課題解決のための方策を探る。

方法

- ①持ち寄った提出課題について、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、実践例を共有する。
- ②実践例をもとに、授業改善について話し合う。